

シリーズ

「私の木語り」

森・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「地域材でDIY」



合同会社ラーチアンドパイン 代表 木平 英一

■自己紹介

三十代は名古屋の大学で森林研究。四十代は地元にてUターンして民間企業で薪販売事業に従事。五十代になり独立し、昨年小さな会社を立ち上げる。十年ごとにやることは変わっていますが、森に関わる仕事で一貫しています。

■活動内容

薪の仕事をしていた時です。太い立派なアカマツの丸太が薪材です。もったいないし、薪にするのも大変だし、なんとかならんかな。どうして木材として使えないのかと素材に疑問に思っていました。



地域のアカマツでDIYした大型ウッドデッキ

独立してから、地域の素材生産者、製材所さんと打合せして、ツーバイフォーの規格で二〇〇本ほど製材し、自分でウッドデッキを作りました。人工乾燥なので、丸太からウッドデッキが完成するまで四十日ほどです。なんだ、やろうと思えばできるんだ。地域の木材がなぜ流通しないのか？その答えは単純明快。使う仕組みが無い、消費者がいらないからなんです。



そこで、地域材を地域の人がDIYで使う仕組みを作ろうと活動を開始。地域材を販売するイベントを定期的に開催しています。知名度も無く、誰も来てくれないかと思いきや、イベントは盛況。地域の木材を使いたいというニーズは確実にあると感じています。



地域の有賀製材所さんをお借りして 地域木材の販売会

■今後の展望(メッセージ)

なぜ、地域の木を地域で使うのか？近くの山の木を近くで製材して家を建てる。ちよつと前は当たり前のことでした。しかし、製材、流通の効率化、大規模化で地域の材が地域で使われることは無くなりました。これは一つの流れですが、それだけじゃなくて地域の小さな木材の循環も大切だと考えています。

木や森は、木材生産だけでなく地域の安全、景観など多くの役割を担っています。森を適正に利用

し、保全するのは難しい課題ですが、顔の見える小さな循環だと安心です。地域で森に関わる人は、森が好きで森を大事にしている人ばかりだからです。一次産業は、地産地消がまず基本。地域材でDIYを当たり前にし、木材の地産地消を当たり前にしていきたいと思えます。



金井山素材さん 木と森が好き

○連絡先

合同会社 ラーチアンドパイン
〒三九六〇〇三三
長野県伊那市山寺二三五二一
TEL〇八〇八四九三二一三五七
地域材でDIY Facebook
グループページ
是非ご参加ください。
<https://www.facebook.com/groups/539792124068328>

